# 京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久紳一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

## 京城選擧界の表裏（四）

### ▲深水清氏の起否

京城日報社主幹として又殖產會社京城支店長として更に商業會議所議員として又選擧權者の城壁として聲望ある深水清氏は最も野心を包藏すと呼ばれしに西部の推薦に對し未だ起否の回答を與へず五里霧中に彷徨し居れり其眞相を窺ふに總督監督の同意を要する爲めなりといふが之を聞ける西部の有志者は爲すまじきものは宮仕へと徐ろ氏の境遇に同情し居れ

### ▲山口氏蹶起せん

山口太兵衛氏は人呼んで眠れる獅子と爲し必ず蹶起すべきと疑はざりしが果して某々等數名の人々を拉して敵派に對陣すべく目下準備中なりと若し果して然らんか中部の激戰は今より思ひ遣られて物凄ごし

### ▲和田氏左顧右眄

和田常市氏は疾くに中部一派の推薦を受け候補を承諾し居りしが今又西部よりも氏を擁立すべく決し之を交渉せしに可然御配慮を乞ふ旨回答し來れり而して十日夜西部の豫撰會に當撰せしが斯くては氏は中部の候補を辭退せざるべからず否らざれば左顧右眄の嘲を買ひ其德操を汚がすや大なりと氏の爲めに惜しむ者あり

### ▲進氏能く知る

進辰馬氏は前撰擧に失敗せし一人なり而して今回又々陣頭に立たんと噂されしが大勢の不利なるを見たるものか斷然之を思ひ止まりたるもの如し義人之を評して曰く氏現に商業會議所議員として重望あり此以上望蜀の慾を起さざるは能く自から知るの明なりと

## ●砂金產地と販路

砂金の產出額最も多きは平安南道の順安にて一昨年中に三十一萬餘圓を產し其他產出多きは平安南道の順川（三千九百十六圓）平安北道の事邊（一萬千六百四十五圓）江原道春川（六千七百四十九圓）黄海道の松禾（四千六百四十圓）忠南北道の文義（三万一千六百二十圓）同淸州（一萬九千九百〇四圓）忠南道木川（五千五百八十六圓）同全義（五萬一千二百二十六圓）京畿道漣川（千三百圓）同驪州（二千七百七十七圓）慶尙北道尙州（二千〇四十八圓）等なりとす而して砂金の販路を看るに京城、元山及び釜山等の第一銀行支店にて買收し貨幣の原料として內地に輸送し引續き韓國銀行之れを繼承し居れるも淸國人の砂金買にして盛んに各地に入り込みて之れを買收するもの少からず之れ又た石金と同じく密輸に密輸せらるるの形跡顯著なるものあるが如しと

## ●全南の物產陳列

木浦商業會議所全南農會等の主唱に依り近々落成の筈なる木浦公會堂を利用して當港に全南管內の農產物、工藝品、水產物等の物產陳列會を開催すべく近く具体的成案を定め道廳府廳等に具申する外農商工部へ陳情し相當なる補助を仰がんとの計畫中なるが全南經濟交通の中心市場たる同港に於て之等の計畫あるは誠に時宜を得たる事にして產業獎勵の上に及す效果尠少ならざる可し

## ●大坂に於ける朝鮮米雜穀

▲十一日（各一石、單位錢）

| | |
|---|---|
| 釜山精 | 一五一〇 |
| 同上 | 一四〇〇 |
| 同中 | 一三六〇 |
| 同並 | 一三三〇 |
| 改良玄 | 一二八〇 |
| 同上 | 一三四〇 |
| 馬山改 | 一三一〇 |
| 木浦玄 | 一二七〇 |
| 同上 | 一三三〇 |
| 群山玄 | 一二六〇 |
| 同上 | 一三三〇 |
| 仁川白 | 一三八〇 |
| 同中 | 一三四〇 |
| 同並 | 一三〇〇 |
| 改良玄 | 一二五〇 |
| 同上 | 一三三〇 |
| 南浦改 | 一二四〇 |
| 同上 | 一一八〇 |
| 釜山山 | 八〇五 |
| 新大豆 | |
| 龍山同 | 九一〇 |
| 仁川大 | 九〇五 |
| 同中玉 | 八八五 |
| 同小玉 | 八四五 |
| 南浦大 | 九二五 |
| 同中玉 | 八八五 |
| 同小玉 | 八四五 |
| 元山大 | 九五五 |
| 同大豆 | 九一五 |
| 同次 | 八七五 |
| 小豆 | 九七〇 |
| 赤大玉 | |
| 同黑並 | 九〇〇 |
| 同並 | 九〇〇 |
| 釜山 | 八八〇 |
| 小麥 | 八六〇 |
| 仁川同 | |
| 南浦同 | 八七〇 |

## 外事一束

●英紙　タイムスは露獨協商に就き該協約に佛英露三國協商を弱むべしと信ずる、欲せずと言明すれども一夕刊新聞は寧ろ露國を以て英佛を捨てたるものと斷言せり、蓋し杞人の憂みには非ざるべし以て英國輿論の大勢を知る可し

●新夕刊新聞イブニングタイムスは一九〇七年の獨乙、通牒に對する露國の本文とも思はしむるものを掲載さ、其重なる內容を記すれば露國はバグダット鐵道の完成に反對せず亦外資が獨乙の同事業に參加するを防害せざることを約し獨乙が波斯に政治的利權を有せず唯商業上の目的に從事することを表示せるに對し波斯に於ける獨乙の商業につきて絕對的均等の主義を承認したりと想ふに久しく外交界に孤立したる獨乙が佛英の背せざりし土耳古に一億餘の外資を供給し佛の隱せざりし匈牙利公債を引受けて是等と結び今亦露と提携して波斯に羽翼を張る所正に孤軍奮鬪圍を衝くの慨あらずや

●波斯　外務大臣辭職の理由は南部波斯に於ける英國の意思に關し同大臣の判斷確定せざりし爲めにあらずと倫敦駐箚波斯公使は否認せりと英國外交の漸く獨乙に一籌を輸しつゝあるは少しく外交事情に通ずる者の皆知る所なり

## 俳句

●漢陽吟社發句集（四）

題　冬月若菜御慶、初雞雜煮　花儒園主人一月五日撰

青々と雪間に崩る若菜哉　思遠
雪またら若菜またらの廣野哉　朝松
初雞や與壹やうな臺所　牛韓
初雞の飛に離れぬ去年のやみ　米水
雜煮好き酒にも強き男哉　其月
また雪の香を有らしき若菜哉　甚水

高座　十吟

山程の若菜も賣ぬ朝の市　如眠
門違ひしても芽出度御慶かな　牛韓
樹の上に神の初雞うたひけり　同
ものたらぬ樣で更たり冬の月　朝松
初雞や降にも負ぬ飛の張　如眠
若菜飯とは珍らしき馳走哉　都天女
親の名で座敷に通る御慶哉　悟竹
人　假橋は辷りそふ也冬の月　西都
地　樹に山にはなれて高冬の月　牛韓
天　黄鳥の餌にもらはる若菜哉　牛韓
追加　冬の月縮て人の通りけり　判者翠雲

## 山中鹿之助

第五十六回　西尾麟慶演

絕ゐて久しき我が夫山中鹿之助の家臣橫道兵庫之助に出會し九重姫の喜び、又二世と約せし夫に會ふたる浮舟の嬉さ、大谷古猪之助が豫て其名を聞き及びし橫道兵庫之助に會たる喜び苦み變じて樂みとなりたる船中の人々折りしも須磨の方より一艇の早舟浪をつんざき此の船を目懸けて押寄せ來りましたか、橫道兵庫之助は之を眺め、偖は海賊船と早くも知らい、討手が向ひたるかと舵に立上つて見下す處へ、船を繫つたが○「若し／＼荒浪金藤太樣の持船は是で御座ひますかェ、私共は丹波の大江山の虎丸の身內の者で御座ひます頭の虎丸の棲家を燒れ、無據京都へ出ました處が將軍家の吟味が嚴敷ので、京都に居る事も出來ず、有金を持て頭と共に是まで參りました、何うか金藤太殿へ宜しく取次を願ひます富分一緒になる考へで態々御尋ね申しました」之を聞て居りました大谷古猪之助は我が母が自害致せしも此奴の爲め、此處へ來らば只一と時ぞ、勇み立つを兵庫之助の金藤太が　兵「大谷殿、急る處で御座らん我が軍用金千兩に繼りなば、夫を持て播州上月の城へ罷越し御主人山中鹿之助樣に御目通りをする其の手土產に致さん所存、處が未だ千兩には不足、何うしたものかと思ふ處へ大江山の虎丸が金を持て來たのは天の與へ、危ふき處を救ふと見せて安心させ、然して彼を斬てすて其金と合せて貯へし金子を合せたら千兩になるであらふ、夫迄は急ぐでないと、止られ古猪之助も尤もと思ひ彼に夫迄見られぬ樣にと板子の下に身を潛める、斯とは知らず虎丸手下を連れ、漸々船へ上つて參りました、兵庫之助の金藤太夫へ出迎ひ　兵「イヤ是は豫て名前は承はつて居りましたが、海と山とを隔てて居るのでしみ／＼御目にもかゝりませなんだ、能く尋ねて下すつた　虎「是は／＼御叮嚀な御挨拶、豫て御名前は承はつて居りましたが、此度大谷古猪之助と云ふ奴の爲に丹波の隱家を燒れ、京都に出た處將軍家の詮議嚴敷、身を置く處も御座いませんから、海と山との違ひはあるが、同じ稼業に世を渡る其許の事故、尋ねて參つたら當分身を隱す事も出來やうと、漸く是まで御尋ね申しました　兵「何んの遠慮が御座ひませう、船の事で不自由勝で御座ひましやうが悠然是に居て下さいまし、及ばずながら御世話を致します、コレ／＼虎丸の頭が御出なすつた何も無いが一口肴上ろ、小賊共が持運で參る酒肴は明れの浦で取りし鯛、酒は備後の名酒、山の中に永く居た虎丸には大層な御馳走　兵「虎丸殿、假令山寨は燒れても今迄取貯た金が深山御座ひませうから御不自由はありますまい　虎「イヤ深山もないサ、今の處五百兩位のものでせう　兵「何に五百兩……」心中にしめたと思ひました、自分の取貯た金も五百兩、夫へ此の虎丸の金を合せれば千兩になる良い鳥がかゝつたと喜びました、虎丸は災難な處へ飛込んで來た、泥棒の上まへ取がおらふとは氣が付ない、殊には板子の下に身を潛めた大谷古猪之助が隙を窺ひ、躍り出して虎丸を眞二ツに爲さんと刀の鯉口を切て待受ける、虎丸の身は風前の灯火の如く旭に向ふ霜の如く、今にも零なん風情、飽迄も先方に油斷を爲せん爲め橫道兵庫之助は、手下に云ひつけまして　兵「虎丸殿、改めて御肴を差上げます、奴郎ども早く是へ女を引出せ、○「心得ました」、忽ち夫へ縄かけて引出し來つたるは水も滴るかと思ふばかりの美人が二人、虎丸之を見て驚ひた　虎「ヤー、是は中御門の御息女九重姫に今一人は腰元の楓ならずや、何うして是が御身の手に入りました　兵「實は夕べ須磨へ手下を稼ぎに出した處、目ざす金が無いので此の二人を引攫て連れて參りました、其時一人の侍が大層に働ひたを漸々切伏せ、此の二人を船に連れて來たに就て、室の津へでも賣飛して金にしやうと思ひ、段々二人の身の上を聞くと、其許の處から逃げて來たとの話、處へ此度御身が見へたのが幸ひ、肴替りに御覧に入れました

廣告

セイカイガン　カクチヨブ　木下大盛堂

國語漢文教授　一名採用致度に付希望者は適當なる紹介者を經て至急來談有たし　旭町一丁目（電話一七八九）　京城夜學校

當院長微恙の爲め轉地療養中の處昨夜歸院致し從前の通り診察に從事仕候也　明治四十四年一月十二日　漢城病院

◎貸金　旭町二ノ一五別府　高橋　組事帳場前向小路　有給者にて極秘密に低利融通可申候

調劑及定性分析　京城本町五丁目　木下大盛堂　長電三九番

貸家廣告　朝鮮町にて表通朝鮮家二十間電話附屬官吏商人向至極適當家賃一ケ月十圓也右望の方は左の處へ御來談あれ　京城南大門通二　韓銀新築前　古物商　葛谷商店

質　京城太平町二丁目三番元黑田邸跡確實の擔保低利貸金融通す並古物賣買　宮永金藏　京城支店

質　京城旭町一丁目度支部官舍向側橫路突當　壚見質店

瓦斯コークス販賣　京城黄金町高等演藝館隣　酒井組　電話一一四九番

入院隨意　菅醫院　京城西小門通六番戶　電話一三一五番

文房具　和洋紙　測量器械　シノサキ本店　京城本町一丁目郵便局前　並賣次營業申候　電話六四八番　振替貯金一五四番

耳鼻咽頭喉頭氣管氣管枝病專門　診療時間　午前自九時至十二時　午後自二時至六時　日曜祭日午後二時迄　京城本町二丁目　石田耳鼻咽喉氣管病醫院　前京都醫科大學耳鼻咽喉科教室醫員　前民團立漢城病院耳鼻咽喉科部長　石田誠　電話一七〇九番

最上醬油　高　釀造元　仁川港萬石町　高杉醬油釀造場　電話七六五番

醫家諸氏に謹告す　新發劑　注射藥　六〇六號　荷着　右到着仕候間御入用の御方は直に御用命の程奉願上候　藥種問屋　京城南大門通三丁目　新井藥房　電話（九〇四）（一〇六八）　振替貯金口座京城十六番

土地建物鑛山株券賣買　貸家管理の囑託を受く　一百町步の果樹園適地買入たし　田、畓、山、金銀、黑鉛鑛買たし　商品其他擔保に貸金す　市外田畓山林未墾地鑛山賣物あり　市內家宅賣物數多あり　小林藤商店　京城明治町三丁目　電話六五五番

●エールリッヒ氏新梅毒注射藥到着致候御希望ノ者ハ御來院アレ　●內科小兒科　●外科花柳病　●入院隨意　京城旭町三丁目　十全病院　電話七三七番

東京電報（十二日着）

▲歌御會と諸役　宮中に於ける新年歌御會始めの諸役左の如し
讀師　正二位侯爵　蜂須賀茂韶
講師　正五位伯爵　滋野井實麗
發聲　正二位伯爵　大原重朝
講頌　從三位子爵　藤井行德
同　同　大宮持秀
同　同　持明院基哲
同　男爵　西五辻文仲
同　同　金子有郷
同　正五位同　中谷眞道
講師控　從三位伯爵　萬里小路通房

▲歌御會を拜觀仰付　來る十八日宮中に於て擧行の新年歌御會始め式には左の諸氏に拜觀仰せ付けらる
元帥海軍大將伯爵伊東祐亨、理學博士山口鋭之助　式部官市來政方　同稻葉正繩、子爵松平親信、山口長信、馬上孝太郎

▲東伏見宮の參內　東伏見宮同妃兩殿下には昨十二日參內兩陛下に御對顔英國差遣の御沙汰を受けさせられたり

▲鐵道費の財源　今後鐵道費の財源、就ては結局短期公債の發行となるは言を俟たざる處なるが之れが何日頃發行せらるべきかに就ては一々今後の成行きに徴する外なく今期議會に之れに關する法律案を提出すべく而して之れを證劵と稱するや或は債劵と稱するやは未定なるも兩者其の一に出づべし尚は政府は朝鮮總督の經營する事業の財源をも鐵道費同樣の制度の下に民間の資金に俟たんとする內議あり

▲內務省低利資金　內務省所管低利資金の指令高は本日迄の處四百五十萬千七百圓にして尚は償還條件等の不備にて照會中のもの十件あり之等も不日指令の筈なるが之を併せて豫算に計上せば七百萬圓を增加する事なかるべし

▲政友會大會準備　政友會は昨十二日午前一時より臨時幹事會を開き大會の準備打合せを爲したり

▲商標保護條約　日米及日露の前例により清國に於ける日露の商標双互保護條約は東京に於て交渉中なるが大体の意見一致したるを以て遠からず發表せらるべく同時に兩國の領民地間に於ける商標保護條約に合せて締結すべし

▲遭難漁夫の無事　去る五日千葉縣銚子沖合に於ける鮪漁業漁中船と共に行衛不明となりたる漁夫百十一名は十一日悉く歸村せり

▲東京の暴風雨　昨十二日午後より頻りに雷鳴して暴風雨となり爲めに東京灣內の航通杜絶したるも本十三日の朝に至りて快晴無風稍々止む

雜報

▲東京の初雷　昨十二日朝來東京同附近に細雨降りたる後夕刻に至り强雨となり初雷鳴るに至れり

●世子殿下と同級生　李王世子殿下は去る九日學習院中學科第一年級に入學せられたるが同級は甲乙二組あり甲組は二十七人、乙組は二十八人にて殿下は甲組に屬せられ伏見宮博義王殿下も甲組に在らせらる又た既記御學友三名中趙大鎬氏も甲組に入り徐丙甲と嚴柱明兩氏は乙組に編入せられ又世子附御用掛高氏の息高義正、高興謙の兩氏は既に一昨年學習院に入學し目下何れも中學科二年級なるよし尚ほ殿下と同級同組なる二十七人中、博義王殿下の外重なる學生を擧れば如左
早川千吉郎氏長男早川忠吉(十四)高崎正風氏令孫高崎正光(十四)波多野承五郎氏次男波多野元武(十四)谷干城子長男谷猛熊(十六)九條道孝公令孫九條道秀(十五)

●恩賜公債授與　恩賜公債本證劵の下附は既報の如く十三日午前十時三十分より朝鮮總督府に於て擧行せられたり山縣政務總監は寺內總督に代りて侯爵李載完氏以下四十六名に對して夫れ〳〵授與を爲したる後正午に至りて一先づ終了し午後一時よりは李熹公及び李埈公の兩皇族に授與せし後一時金玉均並に金宏集の遺族四十二名に授與して當日の式を終了したるが尚は地方在住者に對しては各道長官を經て漸次交附すべしと

●長官會議休會　十三日の定例長官會議は重要問題なきを以て休會

●技術官會議（第二日）　十三日午前十時より畜產務課に於て引續き農業技術官會議を開催し木內農商工部長官、菊池局長、中村農務課長以下前日の通り列席して總督の諮問事項に對する審議報告等を開始したるが當日午前中の會議事項は左の如し
（一）水稻肥料試驗上各地風土及び農家經濟なるものに付き研究の結果
（二）米穀の乾燥調製改良の成績及び將來に對する意見
右事項に關する會議終了し一同晝餐を喫したる後午後一時より更に會議を續行し午後四時頃夫れ〳〵散會したりと

●領事團の總督招宴　京城駐剳の各國總領事及び領事は十三日午後六時よりソンタクホテルに寺內總督を始め總督府の大官一同を招宴せり

●總督と實業家　既報の如く寺內總督は十二日午後六時より同官邸に宇佐川東拓總裁、市原韓銀總裁、古城民長、和田民會議長、山口商業會議所會頭其他當地の重なる實業家數十名を招宴せられたるが席上總督は大要左の挨拶を述べられたり
今夕銀行會社其の他實業に從來せる〻諸君を招待したるは年頭に際し共に一夕の歡談を交へんとするの外他意あるに非ず唯茲に御挨拶旁一言卑見を述べたきことあり
併合以來一般人民をして惡化に浴せしめ其の幸福を圖らひとするの微意は屢に發布したる諭告其の他之に伴ふ實行上に付御承知の事と信ず元來朝鮮は富裕の土地にあらざれば其の開發は容易の事に非ず農產の改良等より着手し浮華の事業を避け穩健の方法に依り生命財產を安全にして衣食の途を得せしむるを急務とす殊に新民を善導するの位地に在る人々は着實なる精神を以て之を扶掖するを要す經濟實業の事に當る〻諸君は自分と同樣の考慮を以て其の業務に盡されむことを希望す
近來動もすれば不況の聲を聞くことあり是は料理店飲食店等に於て從來の如き繁昌を見る能はざるが故なるべし自分は決して淡酷の素慎を要求するものに非ずと雖も奢侈放縱は順當なる發達を爲すに害あるも益なきに依り最も戒めざるべからず聞く所に據れば目下遊興の供給物は甚だしく世間の需用に超過するの狀あり其の不況に陷るは當然なるべし然れども朝鮮全般の狀況は誠に良好なるものあり貿易額の如きも益々盛況に向ひ鎭南浦に於ては二百萬圓仁川に於ては百二十萬圓の增加を見たるが如き其の一例なり蓋し併合後地方は平穩に歸し暴動殺人の審紗なきため自然事業の發達を促かし殊に輸出品の增加を見るに至りたるならむ現在の狀況は誇るべきに非ずと雖も決して悲觀すべき理由あるを見ず朝鮮の富源を開發するは容易ならずとするも去りとて木に依り魚を求むるほどの難事に非ず金融實業關係の諸君は餘りに悲觀せずして吾々と協力して斯民の福利を圖ることに努められたし尚ほ民團關係の諸君に希望したきは上下相一致し圓滑に事績を擧げられたきこと是なり以上開陳せる方針に就ても一般民間に傳へられむことを望む
宇佐川總裁は銀行家實業家其他一般の出席者を代表して總督の鄭重なる饗應と自分等の服膺すべき趣旨を懇示せられたるに關し誠實なる謝意を述べ食後互に歡談を交へ九時頃一同退散せり

●國境稅關問題　南滿洲稅關均等論の盛唱されし當時比較研究の結果南滿稅關の不利に對する補足として安東縣に國境稅關を設置し北滿に於ける露清陸路貿易章程に均霑せしむべしとの提議あり安東縣にては此の爲め特に委員を設け各種の資料により立案し實行運動を開始せしも十分の運びを見るに至らずして止みしが朝鮮併合後清公使汪大燮氏の國境貿易狀況實査及び新義州に於ける清國領事館の新設となり一帶の地方また昔日と同樣ならざる今日殊に淸國側に於いては進んで設關せん氣配なきにあらず汪公使の政務處に送致したる報告書中にも此事に關し記載しありとの由なるが交通最も繁雜を加ふべき同地方の事とて相互滿足の條件を具備せしめんこと容易ならず曾つて立案されしものに對し更らに細心の考慮を要すべきか之れに就いては大連稅關よりも已に總稅務司の下に參考資料を具申しありと云へば近く問題の生起と見るべきも淸國側にては例の露淸陸路貿易章程の改正を先決とすべく露國交涉振りの如何は日本の爲め少からず影響するものあるべし

●大三角測量經過　朝鮮に於ける土地調査事業の進捗に就いては屢次報導せし如くなるが更に大三角測量の經過を聞くに四十三年度に於て遂行すべき豫定の事業は本月中にて完成す可しとのことなるが之れに就き時下嚴寒の候なるに拘らず皚々たる白雪を冒し耐へ難き苦寒を凌ぎて測量に從事しつゝあり而して夫等の方面は慶尚北道大邱郡なる八公山（海拔四千尺）之れを擔當するは中村技手外五名次は京畿道南陽郡烏頭山之れを擔當せるは武內技手外五名次は慶梁津羊林原野之れを擔當せるは宮崎技手外七名にして目下測量事業は進捗しつゝあり一体大三角測量事業は多く高山に於て爲すべきなれば冬季中は休業するの慣例あれども當地にては夫等を顧みず一意專念に事業の完成を企望する爲め斯くは從事しつゝあるなりと

●韓海漁業社の拂込　同會社にては本月廿日より二十五日迄に第一回の拂込をなさしめ以て會社を成立せしめんが爲め夫れ〳〵通知狀を發したり

●各道面法の制定　韓國政府當時に在りては面長の權限は事實に於て徵稅吏たるの觀ありて郡守の行政事務非常に繁多なりしが官制改正後は朝鮮總督府に於て面長の行政權を制定することゝなり啻に徵稅事務のみに止まらず多少の行政事務をも分擔せしむる由にて目下各道に於て面制なるものゝ制定中の由なるが殊に京城府の如きは前漢城府時代に面の制無く行政區劃上不便少なからず今回京城府にては面制を新設すべく目下起草中の由なり而して面制發布後に於ては其徵集すべき稅金は全く國稅と異なる處なく面稅滯納處分なるものも制定せらるゝに至るべしといふ

●門司驛の陳列棚　既報門司停車場內に新設の物品陳列棚は既に去七日より装置を爲し昨今數點の物品を陳列したるが陳列棚は清麗堅牢なる硝子にて之を數段に分ち總數六十區となし出品物は美麗に裝置しあれば待合の客は珍らしく群集して縱覽し居れり驛內の物品陳列場設置は全國の各停車場中之を以て嚆矢とし適宜の設備と云ふべし出品申込は來る二十日迄に締切るべしと

●平北の署長會議　平安北道に於ては十四日より三日間管內の警察署長會議を開くべしと

●水產組合通常會　釜山朝鮮海水產組合に於ては來る二十五日第九回通常會を開き水產業に關する協議を爲す等なるが農商工部よりも一名出張臨席すことゝなり居れりと

●仁川英國領事送別　在仁川外人團は京城英國總領事賜暇歸國に付留守中代理を命ぜられたる仁川領事を招待し十三日各國公園外人俱樂部に於て送別會を開催せし由

●憲兵警部新年宴　京城憲兵下士相當官及び警部數十名は十三日午後六時より梅の家に於て盛大なる新年宴會を張れり

●佐々木理事の歸京　東亞煙草會社理事佐々木唯市氏は東上中の處十二日歸京

●一銀支店の成績（下半期）　第一銀行朝鮮支店の下半期の營業成績は前半期に比し良好純益七萬六千四百七十六圓九十八錢に上りしといふ

●百三十銀行京城支店成績　百三十銀行京城支店の下半期の決算を聞くに十二月末日現在諸銀行預り金七十一萬三千九百十六圓諸貸付金百十二萬五千二百四十九圓にして純益二萬四千六百四十圓三十錢なりしと

●京城民團次年度豫算　各地方の民團に於ける四十四年度豫算は既に編制濟となり右に付き民會開議中の地方もあるが當京城民團は四十四年度に於ける同豫算は彼の新事業委員會の手にありて決定に到らざるにぞ從って豫算編製するに至らず今尚ほ着手の運びにわりと云ふ

●稅制主査會　當民團の稅制調査會主査會は豫報の如く十三日午後一時より民團樓上に於て開會し一應打合せをなしたる上夫れ〳〵分担を定めて稅制の調査に取掛れり

●民團議員選擧投票場（決定）　卅一日の選擧投票場は最初民團選擧者側に於て一ヶ所となすことを內定したるが其後龍山の有志者は該投票場に龍山にも一ヶ所設置せんことを希望したるを以て古城民長は其意を諒とし監督官廳に交渉する所ありしも法令の制限する所投票場は南大門小學校一ヶ所と決定したり

## 選擧界の表裏

▲各部候補內定　各部の候補選定は孰れも期定審議の奇觀を示めし其間亂渦に名狀すべからず其中に在って現に角出がりなりにも纏め得たる候補者を擧ぐれば左の如し
東部（釘本藤次郎、梶原末太郎、關繁太郎、古城梅溪、石井新、大橋淸三郎、淵上貞助、近藤佐五郎）
中部（林田金次郎、小林藤右衛門、和田常市、城六太、秋吉富太郎、中村再造、增田三穗、杉山孝平、山口太兵衛、森勝次）
西部（三好和三郎、池田長次郎、大村保太、高橋章之助、海津三雄、深水清、松浦源治、曾我勉）
龍山（村井吉七、德久米藏、海津三雄、岡井泉）
別派（松永達次郎、中島司馬之助、皆川廣濟、原勝一、前田熊一）

▲別派の躍起　並に揭げたる別派と稱する人々は孰れも錚々の聞ゆある驍將なるが不幸にも各部豫選會より除外せられたる爲め憤慨遣る方なく必ず何等かの作戰計劃を爲すべく期待せらる就中松永達次郎氏の如き一たび中部の候補に選定せられ又皆川廣濟氏の如き石井新氏を通じて東部に運動を開き折角西部の推薦を辭退したるに形勢頗ぶる面白からざるものあり其他前田熊市氏は滿腔の野心ありと稱せられ中島原兩氏も徒然隱退すべしとも思はれず旁々此人々の運動や刮目注意す可し

▲東部の繁榮會　東部に於ける繁榮會は會員約八十名を有し其勢力侮るべからざるものあり而して別項一部有志の間に內定せる候補者は自稱自撰の嫌ありと憤ほり今十四日梅の家に總會を開き眞正なる撰定を爲すべしとの事なるが同部には此以外に人物を得難き關係あれば格別の波瀾を見ざるべく觀測するもの多し

▲西部の候補會見　西部有志者は十二日夜不知火旅館に會合して別項の如く八名の候補を選定せしが更に今十四日は候補者を招き其意見を聽取し然後の決定を爲す筈なり

▲龍山の分裂　龍山は別項の如く候補を撰定せるが這は池上某傍訪組を率ひて撰りまに內定せるものなり其とて兼古大村一派の人々大に激昂し其横暴を憤慨し居れり而して此一派は兼古禮造、渡邊五郎、大村百藏、德久米藏、岡井泉の五氏を擧ぐべく內定し兩派の一致圓滿を企圖せるに計らざりき池上某の此措置より四分五裂の勢を成し前途の形勢豫測すべからざるものあり

▲中部の諸會合　中部の有志者中別項林田金次郎氏以下の人々は十二日夜森勝次氏邸に會合し又松永達次郎氏宅にも十餘名の有權者集まり深更まで協議を重ねたり

## 民團議員豫選投票（十三日締切迄得票通計）

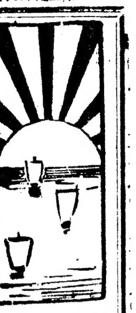
| | |
|---|---|
| 增田三穗 | 六百九十八票 |
| 中島司馬之助 | 六百三十六票 |
| 釘本藤次郎 | 六百二十七票 |
| 山口太兵衛 | 六百二十五票 |
| 梶原末太郎 | 六百二十三票 |
| 曾我勉 | 六百二十三票 |
| 三好和三郎 | 六百十五票 |
| 森勝次 | 五百九十八票 |
| 關繁太郎 | 五百八十六票 |
| 松永達二郎 | 五百六十五票 |
| 城六太 | 五百六十三票 |
| 皆川廣濟 | 五百二十八票 |
| 林田金次郎 | 五百二十三票 |
| 石井新 | 五百十七票 |
| 池田長兵衛 | 五百十二票 |
| 古城梅溪 | 五百九票 |
| 淵上貞介 | 五百三票 |
| 秋吉富太郎 | 四百八十六票 |
| 田村義二郎 | 四百二十九票 |
| 小林藤右衛門 | 四百二十六票 |
| 伊藤友松 | 四百十二票 |
| 兼古禮藏 | 三百八十票 |
| 原勝一 | 三百八十票 |
| 進辰馬 | 三百七十八票 |
| 深水清 | 三百四十九票 |
| 松浦源治 | 三百四十六票 |
| 池田長次郎 | 三百四十一票 |
| 阪敬明 | 三百十票 |
| 大坪文吉 | 三百七票 |
| 國井泉 | 二百六十票 |
| 海津三雄 | 百八十七票 |
| 小川勝平 | 百八十二票 |
| 益永十作 | 百七十五票 |
| 古迫角次郎 | 百四十六票 |

二五和田篤朗、一新庄順貞、一圓三一太郎、倉富勇三郎

注意
前號に發表せし得點者にて點數の其儘なるものは本日の表に加へず尚本日よりは一百點以下の得點は新候補者以外は不揭載

▲京龍兩驛の貨客▼
▲南大門驛乘降客　十二日の分　乘車客 四八〇　下車客 五八四　乘車賃金 九〇〇、〇四
▲南大門驛荷扱高　十二日の分　發送 三七噸　到着 六三八　貨物賃金 五〇〇、〇三
▲龍山驛の乘降客　十二日の分　乘車客 一七五　下車客 一〇二　乘車賃金 一八九、四八
▲龍山驛の乘降客　十二日の分　發送 九五噸　到着 二五八噸　貨物賃金 三三五、二三

▲治外法權▼　十二日夜總督邸に於ける總督の實業家及民團關係者招待會は別項記載の如く盛んであつた、同會に於ける總督の挨拶は他の團体を招待したときよりは餘程詳密なものだ之れを以て見ると總督が如何に實業家及民團關係者に期待するところ多きかゞ判る▲昨發行の本紙雜報欄に漢城銀行增資の記事があつた、漢城の增資、开は決して惡いことではないのだ、併し問題は善惡にあらずして必要不必要にあるのだ▲該雜報中にもあつた通り今や我が京城は金融機關の欠乏よりは寧ろ多きに失して居る、然る處へ必要も無きに三拾萬圓の銀行を三百万圓に增資する、增資、必要、不必要の論の起る素より當然のことだ▲敢へて算盤をハヂクまでもなく三百萬圓と云へば三拾萬圓の十倍だ、若し夫漢城にして今回の增資を遂行するに於ては丁度従來の漢城銀行が一時に九ツ殖ゆるのと同じことだ、如何に金融機關の增設を要するとは云へ一時に九つは餘程考ものだ▲本社は漢城の增資問題に付き記者を度支部當局の許に派して其意見を尋ねた、當局は餘り多くを言はなかつた、只だ知り得たるところは舊株全部の拂込が濟まぬ中に新株四萬八千株を增發するの認可が未だ下つて居らぬ事だ▲總督府が宗教宣布規則を發布するのは必要の措置だ、社會の改造は各方面から手を附けねばならぬ、殊に人心を支配する宗教の如きは最も意を注いで手を附けねばならぬ▲今度總督府の參事官を兼任した秋山博士は世界に於ける國際法の大家だ、此人曾ては大酒家であつたが今は飮まぬ、思ふに大學者は禁酒家に多い樣だ。



### 活動寫眞　瘦百子

十三日 **朝の南大門驛**

寒氣嚴しき夜は明けて、萬象皆凍るが如く人や馬や犬や牛やの息は白く恰かも針を植へたかのよう、行き〳〵て驛前に出づれば人車三輛、寂寞たるものである。

**伊勢桑名諸戸**安太郎と書せる行李四個を載せた車が着く、手荷物扱所內には、既に數個の荷物が積まれてある第一に目に觸れた鶴の二籠には。

東京麴町衆議院書記官長官舍 **林田龜太郎**殿行、一方には

どの木札が結び付けてある、

新義州警察署內 **福井警部殿**

との薄箱が在つて差出人は京城南大門通り**丁子屋**と認めてある、更に大箱に目を止むれば、咸興地方裁判所

元山支部檢事局御中

と搭當の木札が認めた。

一等室はと見れば。

憲兵大尉宮川宇三郎

の名刺あるカバンの傍らには。

粗品 **奥田貞次郎**

と書した**菓子の折箱**が在つた

大倉土木組 **石井周平**

の名刺を挿だトランク白布に相模ヅシ行とあつた、十一日夜着して

三井物産の人車に送られし夫妻ハ洋人も、大形トランクを托して**安東縣**に向ひ、同日山本旅館に入りし

高橋陸軍大尉

若き婦人と同行し、平壤へ出發すべく見へた。

人足高き驛內は南北兩行の列車に乘すべく去つて、只秩序なき鮮人のみ彷徨する。

午前九時、驛夫は釜山行列車を動かすべく白旗を揮つて、僕の顔をヂロリ……………

同九時十分、新義州行列車も搖き出たあし規律と秩序とを重んずべきは只驛道のみではない。僕は、大に。

**當局者の雅量**

能く他の忠言を容れられしを謝して筆を擱く。

### ●悪意なき犯罪

十一日高等法院刑事部法廷に開廷されたる鹿兒島縣揖宿郡喜入村字前の濱二百廿三番地當時永樂町二丁目醫士池上要吉（三七）に對する文書僞造行使事件の上告なるが裁判長岩野判事勝檢事平山判事石川判事淺見判事牧山判事列の如く着席辯護人木尾辯護士出廷裁判長は辯論を開く旨告げ木尾辯護士は上告趣意に基き辯論を開始しぬ事件は文書偽造犯なるも其の內意は一寸面白ければ之を記せんに被告池上要吉が全羅南道木浦港各國居留地務安通り二丁目三番戶に於て醫士開業中同地外竹洞居住料理屋田中源太郎方藝妓金長事赤峯いよ（十九）が同地劇場壽座に興行中の俳優日比野欣次郎事橋本文之助と深しくなり昨年四月二十八日痴話喧嘩を爲しいよが文之助より毆打され右肘關節部を負傷し池上に診察を受けし其の際打擲傷なりと診斷し之に投藥を爲したり然るに池上は翌二十九日夜壽座に芝居見に行き俳優文之助に出會して刑事問題惹起せざる以前示談を勸め自ら仲裁を試んと爲し居る內翌三十日被害者いよが告訴を爲さゞる內に警察署にて探知し取調ぶる事になり診斷書を要する事になり、之に池上は双方圓滿に解決す可き樣に文之助及び被害者いよが互に人氣稼業のことにて信用上双方を思ひ左上肢に於ける筋レョーマチスと虛僞の診斷書を作りし爲め文書僞造行使の被告に取られしが光州地方裁判所木浦支部に於て罰金七十圓に處せられ大邱控訴院に控訴せしに棄却となり木尾辯護士に依頼して上告高等法院に於て前判決を破棄され京城控訴院に移送され同院に於て罰金三十圓に處せられ再び上告せし事件なり

### ●無頼漢の引致

太平町二丁目料理店永樂亭に昨年十一月以來本年元旦早々數十回博徒の無頼漢四五名登樓して酒肴を命じ飲食代は拂はざる上亂暴を働き器物を破壞するのみならず或る時は酌婦等に身揚りを強る等にて警察の厄介になる事屢々なるが被害者は該亂暴者を告訴する意思なく單に後難を恐れ居りしが是れには何か理由の伏在するならんと長野刑事等は內偵に從事し今般亂暴人たる太平町二丁目博徒上田外次郎方居住大分縣下毛郡中津町字小澱生角庄平（三二）前科二犯兵庫縣赤穗郡相家村當時住所不定前科一犯望月庄太郎（三四）太平町一丁目博徒栗田留五郎方居住兵庫縣有馬郡有馬村生れ前科一犯風早龜吉（三五）福岡縣遠賀郡下城村字安城百四番戶當時西小門內五十二統三戶平井民治（三五）西大門驛前柳澤雜貨屋店員赤星宇作（十九）等が十二日午後十一時頃永樂亭に登樓酒肴料九十錢に相當する丈け飲食して例に因り亂暴を初め樓主を斬るとか踏とか騷動を演じ居りとの急報に接し長野刑事外一巡查出張せしに當時は逃走せしが彼等は十三日午後五時頃永樂亭に入來りしより南部署に引致され目下取調中なるが探報記者の精探に因れば永樂亭樓主が賭博を常習となし居る當時彼等と共に勝負を爭ひ居りしが樓主末永德次に注告する人ありて同人は改悛賭博を止めたるより彼等博徒は資金を得んため德次に花を立て異れと賴みしも德次は其筋の注意を恐れ一方彼等無頼漢との交際を絶んの考にて言を左右に托して應せざるより斯の如き亂暴するに至りしも永樂亭にては自分が是迄の非行の暴露を恐れ届出でざりし者なり

### ●生徒寒極りて泣く

檜垣學務課長官は十三日午前九時より日の出小學校、櫻井小學校其他朝鮮人側の各學校を巡視したるが櫻井小學校に到りたる時は校長は生徒を**校舍外**に整列せしめて敬禮したるに、**長官**は諄々として忠孝仁義の道を**演說**するや頑是なき生徒中には寒に堪へず泣き出して演說よりは火鉢が宜いと泣き出したるものありて長官の演說は中止となりたり

### ●京府泉天安驛

間違ひも時には愛嬌があるが之れはまた頗る非常の大間違ひ愛嬌どころか中々に大難事だ該事は十二日南大門驛に起りた悲劇だ天安に大工緒方某と云ふのがあつて大事な父親を迎へんとて鄉里鹿兒島の父親に宛て〻招き文を出したがそこは職人の悲しさ京釜線を京府泉と認めた之れが抑も大間違の基で父親は絶へて久しき可愛き伜に逢ふを喜び直ちに旅裝を整へて鹿兒島驛へと驅付けたが該地の驛員は京府を見て早合點にも京城の切符を賣つた父親芳五郎（五十）は汽車の着くを遲しと飛び下りて驛夫に訂せばこはそも如何に百餘哩を離るゝ天安と知られた處が旅費が無い奇特の驛夫は之れを保護し直ちに天安の伜に向つて電報爲替を送り越すべく盡力して漸く父親は有難涙を寒風に凍らせつゝ又長き旅路を汽車に揺られて去つた

### ●飯が食度さに自首

兵庫縣川邊郡伊丹村當時住所不定久保田清（二三）は十二日午後十時頃南部署に出頭し自分は一定の住所職業なき浮浪者にして日の出町一番戶の三齊木七郎方の樂器を破壞せしに付相當の處分ありたしと自首せしより司法係りにて取調べたるに久保田は齊木七郎方に雇れ中酒癖ありて屢々亂暴するより解雇せられたるに齊木の樂器を取り出し之を入質せんとせしに質屋に怪まれ齊木に照會の結果目的を遂せざるより齊木方に至り亂暴したる由なるも被害者に告訴の意思なき爲め訓戒放免されしが久保田は此の頃の嚴寒にて食事の途なきより心にもなく自首したる次第なりと

### 歌留多競技會

▲日時 來る十五日（日曜）午前十時より

▲場所 明治町浪花館

▲懸賞 一等より十五等まで

▲會費 一名に付金五拾錢（粗餐を呈す）

右の通り相定め候間同好の諸子は男女を問はず御來會希望致候尙競技者以外の入場者に對しては混雜を防ぐ爲めに一名に付金五錢申受候事

正月　幹事

### ●猫島遊客の頓死

仁川寺町一丁目三番戶洗濯業安八十八屋事福島縣人新田佐久馬は十二日洗濯業者の新年宴會を宮町小料理店三福樓に催されし出席第二次會に友人三人連れ猫島南海樓に登樓佐久馬は小文事和歌山縣人佐伯すみ（十八）と昨年秋以來深き知合になり居るより敵妓に他の友人は女が氣に入らず歸宅し佐久馬一人宿り翌十三日朝小文は眼を醒したるに佐久馬の身體冷くなり居るより吃驚して悲鳴を擧げしより家人一同大に驚き仁川署に急報せしより警官出張檢視の結果死因に疑ひあるより仁川病院にて解剖する事となり仁川裁判所より安藤檢事及警官等立會解剖の結果心臟痲痺なる事判明して死體は雇主に引渡せり

### ●十三日の寒氣

去る十一日降雪後は頓に北滿洲の高氣壓襲作して北西風強く氣溫俄然急落して十二日最低零下十八度となり尙十三日午前七時三十分には零下廿一度五に下り京城測候所創設以來の低極を示せる由にして今四十年以後五ヶ年間を比較すれば左の如し

| | 氷點下 |
|---|---|
| 四十年十二月廿三日 | 一〇、一 |
| 四十一年二月七日 | 一五、八 |
| 四十二年十二月廿六日 | 一四、六 |
| 四十三年一月三十一日 | 一九、九 |
| 四十四年一月十三日 | 二一、五 |

### ●以後は乾度愼め

熊本縣阿蘇郡宮地町千八百八十六番地當時若草町一丁目七十七番戶大工職內田伊平（四〇）及內緣の妻山城かめ（三〇）若草町二丁目八十番戶中村松三郎（四一）櫻井町三十七番戶松崎音松（三一）新町三丁目四十七番戶渡邊綱太郎（三二）の五名は十三日午後四時頃內田伊平宅に於て輪座を作り花札を以て賭博を爲し南部署に檢擧されしも娯樂に出でたるものと認められ訓戒放免されたり

### ●此の方は罰金刑

佐賀縣平民當時明治町三丁目百二十一番戶大工職田中虎次郎（三三）佐賀縣平民當時南大門通り三丁目裏通り大工職上松源太（二八）山口縣人當時北米倉町十八番戶大工職秋貞晋吉福岡縣人當時西小門外泉町六番戶大工職濱田喜五郎（二六）福岡縣人當時北部桂洞村田梅吉（三〇）の五名は十二日午後十一時頃より翌午前三時四十分頃迄田中虎次郎方にて輪座になり金錢を賭し博奕を爲し南部署に檢擧され各罰金五圓に處せらる

### ●仁川雜事

十二日午後十時四十分仁川濱町二丁目通り運送業森音組事天明キク方人夫休憩所のストーブより發火し同所を燒拂ひ本家へ延燒し火勢頗る猛烈なりしが常設消防夫驅付水道栓にポンプを掛けるや見る〳〵中に左しもの火勢も黒烟と變じ忽ち鎭火せり時に同十一時なりき▲仁川宮町二丁目藤本時雄は十二日午後六時頃同町一丁目明治屋前にて革の財布一個を拾得届出▲仁川萬石町沼波石松の飼犬は十二日朝京城日報配達夫に吼え付きたるより矢野獸醫に診察せしめたるに狂犬にはあらざるも危險の恐れあるを以て嚴重に繋留せしめたり

### ●氷凍せる本町通り（一）

エスの字投

七日正月前後であつた、午後二時頃に本町一丁目から六丁目迄、何とはなしに歩行いて見た。晴れとは云へど光弱きれ天道さまは早や大分西の方に舂きかけてござる、道路はと云へば硝子でも敷き詰めたように一面キラ〳〵と光つて凍つて居る、下駄がけでテク〳〵歩行きの自分は幾度か倒れんとして漸く踏み止まつた位の日であつた事を記憶する。京城府廳前は何の氣も注かなんだが此處を過ぎてフト齊木堂の前迄來た時である、ト見る道路の中央は頻繁な車馬の通行で著しく冷凍た氷が砕かれて居る、其刹那之れならば滑らないで歩行くに都合がよいと思つた、思つたと云ふより實は白瀨大尉が南極でも發見した位に人の知らない發見をした位に考へた、幸ひ右へ右へと命せられる查公殿に見附らぬので早速自分は中央を歩行いた、張り詰めた道の氷りも程能く破れて居るので一向に滑らない、コイツ工合がよいと思ひながら兩側を見ると自分が今迄やつて來たように滑りながら左右側を歩行いて居る人が多い、自分の心の裡でコンナのを稱して世間は馬鹿正直と言ふのだなど思つた。

●龍山本願寺 にては十三日晚より三晝夜御正忌修行晝夜とも藤本教廣師が講師數名の說敎あり參詣隨意

●淨土宗開敎院 明治町同院にては十四日午後五時半より新年會を兼ね創立一週年紀念講演會ある由餘興として「テーブルスピーチ」筑前琵琶福引等有

### ●演藝だより

●壽座 同座十四日の藝題は前狂言怪談乳房の榎木大序より大詰迄切狂言梅之由兵衛茶屋場なり

●浪花館 東京落語曲手踊米枝一座にて木戸場代共二十錢均一なり

**一日の運勢**

●一月十四日舊十二月十四日●三碧甲申先勝危△一白●遺失防ぐべし婚談金談調停に忌む其他進んで吉△二黒●間違紛擾起り易し又負傷衛生注意すべし新事旅行見合せの事△三碧●大事新事手控への事遺失盜難注意すべし△四綠●賣買及不動産上の事に忌む其他平和△五黄●盜害遺失防ぐべし建築動土に吉其他手控への事△六白●無心要求に遭ふあり業務上障害多き日とす婚談旅行見合せの事△七赤●建築農業に進んで吉其他控へ目の事保證裏書受印連盟協同の事凶△八白●徒勞多き日なり尙金談謀職婚談纏り難し△九紫●願進の日大抵吉訴訟紛爭生じ易し（三一館）

●天氣豫報（自十三日午後六時至十四日午後六時）

北の風晴


廣告

京城居留民團告示第三號
左記ノ者京城居留民會議員選擧人名簿ニ登錄ス
明治四十四年一月十三日　京城居留民團民長　古城菅堂
濱江通り四丁目　北川島藏
慶應二年十月三日生

京城居留民團告示第四號
左記ノ者京城居留民會議員選擧人名簿ノ登錄ヲ取消ス
明治四十四年一月十三日　京城居留民團民長　古城菅堂
左記　中村藤吉

告廣島縣人
來る十四日午後六時より城壽町井門樓に於て京龍廣島縣人會新年大會を兼ね秋山參事官歡迎會を開催す會費二圓持參來會を乞ふ
明治四十四年一月十三日　幹事

謝近火御見舞
仁川濱町三丁目　綿谷鐵工所

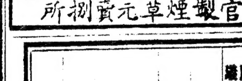
滋養 高等牛乳 壯强
京城南大門外　韓國畜産會社　電話八八番

購買入札公告
一デルビル電話機五十個外四廉二十九點
右購買ヲ競爭入札ニ附ス詳細ハ一月十三日ノ朝鮮總督府官報ヲ見ルヘシ
明治四十四年一月十四日
朝鮮總督府通信局

大韓醫院　陸軍衛戍病院　特定御用
一年間の滋養供給は寒中に在り滋養の効果は寒中に最も大なり
寒中滋養を欠けば病に罹れ易し
世は命あつての物種
牛乳なる哉而も寒乳なる哉
荒井牧場
京城 電話千五十六番　龍山 電話廿二地

寫眞器
東京神田區通新石町大通　電話本局百十三番
圖解目錄郵券四錢　新古交換
（幻燈器目錄郵券二錢）
合名會社 進々堂本店
振替口座一八九二四番

美術 實用 品各種
セトモノ
（肥）各製産地新荷着



京城本町二丁目　陶榮商店
電話百十三番　振替口座韓國二三二番
官製煙草元賣捌所

民團議員豫選投票用紙
京城新報社

諸公債諸株券 現物賣買 迅速確實に御取扱可申候

兼業 製洋服小物 鐵官衙御用達

京城本町三丁目

大坂野村德七代理店

田中友吉商店

電話九三九 略號（ク）

---

**實用新案 第一八六一二號**

如何なる寒風も恐るゝに足らず

ポケット附 めりやすチヨッキ

大陸の寒風に吹かれ給ふ紳士、勞働者、婦人諸君、是非に弊店のめりやすチヨツキを着用し給へ、外で働く人には重からずして暖かく、内にゐる人には輕くて肩がつまらず、体裁最も宜く然も丈夫で洗濯がきく

色は御男子用には樺色モク、カスリモク、御婦人用には紅梅色の派手なのがあり殊にポケツトは裏にも表にも附いて之が便利安全の新案實用、さあ〳〵早く召しませ〳〵

大阪市東區北久寶寺町二丁目

メリヤスタオル商

**吉野善兵衞商店**

長電話東三二四四番

振替貯金座口大阪一一三三番

---

エールリツヒ、秦兩氏發見

**梅毒新藥（六〇六號）**

●原品到着に付注射開始

本劑注射に就て特に府立大阪高等醫學校病院皮華科部長恩師醫學博士櫻根孝之進氏より詳細なる指導を受く

◎貧者無資力者にも普及救濟の主旨に由り注射料金低減を實行す

◎嘗て當院治療を受けたる人々には特に便宜を與ふべし

花柳病痔疾專門

相生町南門湯横（電話一二九四）

診療 自午前八時 至午後八時

院長 醫學得業士 蘆田耕平

**京城梅毒病院**

---

**開業御披露**

無意氣都々逸 三首の內 其二

人にや笑はれ世間にや遠慮

こんなつまらぬことがない

次は明日

新町二丁目七番戶

**龜鶴**

電話一三八一番

---

人力車引越其他

諸荷物運搬請負

西小門內

**西門組**

電話一一七七

---

エールリヒ 秦 氏

**新梅毒注射藥**

右新劑サルバルサン到着本日より隨時注射治療致候（入院隨意）

一月十一日

京城南山町二丁目

**松岡醫院**

電話六七五番

---

朝鮮代理店 京城南大門通 新井藥房

---

**廣告**

一佛國レロイ社製壁紙各種

一英國ランカスター無地リノリユーム

一ボンメル蝶番各種

右多數貯藏致居候間御注文願上候

京城エル、ロンドン商會

明治四十四年一月

吉岡信太郎

電話九九五番

---

京城米倉町

**龍山精米所**

電話一二四番

各位御多祥奉賀候平素は一方ならぬ御引立を蒙り奉謝候今般京城米倉町（南大門內朝鮮人朝市場側）に新工場建築移轉致候原動機は最新式吸入瓦斯發動機を据付候のみならず精米設備に於ても萬般良改を加ゐ候間製品は從來より一段の精選を期し候何卒倍舊の御高庇を以て多少に拘らず御用命の程希上候

---

**移轉廣告**

一弊店等日鮮合邦と京城府發展に伴ひ從來の場所にては不便利に付左記へ假新築移轉仕候間舊倍の御引立の程奉願上候且弊店等の店前には日本人朝鮮人支那人等共に多數開店卸小賣に係らず勉強營業致させ居候に付食料品は全部立所に取揃候間至極便利に有之候共に御引立願上候

京城南大門內南米倉町

池尻林太郎商店 電話三五一番 振替口座八六番

辻本嘉三郎商店 電話六四一番 振替口座京城三八番 本宅旭町一丁目 電話一四七八番

仲買人一同

---

**齒科治療**

本町六丁目（鮫そば橫町）

ドクトル 中村安子

女子見習募集委細面談

（電話一五八三）

---

**諸金網製造販賣**

鑛山用 製紙用 精米用 織綱一式 篩類一式 其他御好次第

右今般當店監獄作業部ニ於テ製造開始致候ニ付多少ニ不拘御用命仰付被下度候也

京城本町五丁目

和洋金物商 （藤） 釘本藤次郎本店

長電話四五番電信略號「ク」

振替貯金口座朝鮮二五六番

---

**淺田飴**

良藥にして口に甘し

淺田宗伯先生直傳

たんせき一切 肺病の特藥 よわき人によし

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房

電話九〇四●一〇六八

振替口座京城十六番

---

玆齊流割烹

**す津祢**

南山町一丁目

電千五百二番

---

●靈妙不可思議の神易

井九星方位●通信活斷は一圓の送金を要す

京城南米倉町 和樂園下

**一心堂**

---

**眼科**

日曜及祭日は午後二時迄

京城本町一丁目憲兵分遣所前

**江頭眼科醫院**（電話二十三番）

前漢城病院眼科部長 醫學得業士 江頭富雄

---

清正釀 政宗造 正則元

**上酒** 小賣壹升に付三十錢

清酒 味淋燒酎 並に各用食料品雜貨類

釀造元 卸賣は特別割引可仕候

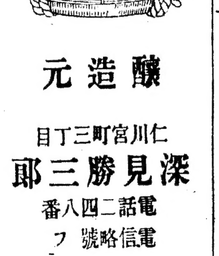
京城壽町三丁目

**中井酒造場販賣部**

電話百七十七番

電話にて御注文の際は一升以上は店員をして速達致さすべく候

---




釀造元

仁川宮町三丁目

**深見勝三郎**

電話二四八番

電信略號フ

---

營業科目

諸官衙御用達

和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐アレン 織物食器 諸染料類

賣販 特約

東京ランバード商會代理店

**藤田合名會社**

本社 京城明治町二丁目（電話三〇番）

出張所 京城南大門通一丁目（電話三六九番）

---

**和洋古物各種**

新案 ㊇たびもた

堅牢ヲ兼ネ便利也

京城本町一丁目

**安原商店**

電話四八三番

㊇出張店

---

諸官衙御用品 一 安心火止石油販賣

石油各種 鑛油各種

御卸部

炭、薪、酒、醬油

日用食料品一式 小賣部

京城南山町一丁目百十四番戶

**奈良屋商會**

電話六八八番

---

印章彫刻

ゴム印彫刻

京城本町四丁目

**赤帽子號印鋪**

電話九三番

諸官衙御用達

**奧野岩太郎**

---

**世帶道具は何でも有り升**

外に宅ノ酪酒手ヨリ白米和洋ローソク

上白シメ油（高）醬油ハ特約品

右品質上等直段下等大勉強販賣仕候間續々御用命奉願上候

日用雜貨卸問屋

京城本町六丁目

**西崎嘉七本店**

電話（二百十番）電略（ニカ）又ニ

振替貯金口座韓國七番

---

キ

一月中出帆廣告

海州行 十五日、十九日、廿三日、廿七日、卅一日

安來丸 十三日、十七日、廿一日、廿

天草丸 五日、廿九日

屯串行

成歡丸 十四日、十八日、廿二日、廿八日

千葉丸 十二日、廿日、廿四日、廿八日

省丸 十六日、廿六日

喬桐島行

千葉丸 廿一日、二月一日

成歡丸 十六日

三省丸 廿六日

九味浦行

海利丸 廿一日、廿九日

仁川本町四丁目

**秋田商會船舶部**